

4年生で「認知症サポーター小学生養成講座」を開催

少子高齢化が進む状況においては、特に認知症高齢者の支援について、早い段階からの認知症への正しい理解が大切であるとの趣旨から、八尾市高齢介護課では、これまでに「認知症サポーター小学生養成講座」を各小学校で実施しています。3年かけて全小学校で開催できるようにスケジュールが組まれており、4日(金)、4年生を対象とした講座が本校でも実施されました。

まずは、「認知症って何？」ということを理解し、認知症の人に対しての接し方（3つの「ない」①驚かせない ②急がせない ③心を傷つけない）を学びました。

子どもたちは、真剣に高齢介護課の方の話を聞いていました。

認知症サポーターとは、認知症の人の「応援者」です。特別なことをする人ではありません。認知症の人を、温かい目で見守る人のことを言います。亀井小学校の4年生の皆さんも、今日から認知症サポーターです。自分にできることを考えてみましょう。



亀井小学校の認知症サポーターたちに、オレンジクローバーが一人ずつ渡されました。意味するものは、「笑顔」「優しい気持ち」「人との繋がり」「寄り添う」です。

八尾市理科作品展がありました

5日(土)・6日(日)にプリズムホールで「八尾市理科作品展」がありました。理科に関する研究の成果が、所狭しとたくさん展示されていました。夏休みの間に、観察したり、調べたりしていたようです。亀井小学校からは、9点の作品が展示されていました。

ほとんどの小・中学校から提出された作品なので、結構見ごたえもあり、感心するような研究もたくさんありました。亀井小学校の作品の中からは、「けがのひみつ」「結晶の成長と性質のひみつ」の2点が、なんと“銀賞”に選ばれていました。頑張りましたね。

